

## 大阪情報コンピュータ専門学校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に即し実施した「令和4年度自己評価報告書」に基づき、7名の評価委員に評価を頂いた。

事前に「令和4年度自己評価報告書」「学校情報」を配布した上、学校関係者評価委員会では、評価項目に沿って、ご意見を頂戴した。

1. 日 時：2023年7月4日（火） 15：00～17：00

2. 場 所：6-D 教室

3. 参加者：7名

(1) 学校の専門分野における業界関係者

篠木 聡 株式会社ウイズ・ソフトウェア 代表取締役

(情報処理学科、IT テクニカル学科、情報システム開発学科、総合情報メディア学科)

長尾 和昭 株式会社 COMET DESIGN WORKS 代表取締役

(メディアデザイン学、ゲーム学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

山田 成彦 株式会社タニスタ 代表取締役

(メディアデザイン学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

広末 貢一郎 株式会社エアポートカーゴサービス 関西業務部 次長

(IT ビジネス学科)

(2) 保護者

谷川 忍

(3) 卒業生 (株式会社ナック代表取締役)

野口 幸雄

(4) 接続する学校の関係者 (科学技術学園高校 大阪分室長)

東 龍太郎

4. 委員会議事内容

項目	評価・意見
(1) 教育理念・目標	・育成する人材像に「Society5.0に向けた技術の進展に対応する」とあるが、生成AIに対する教育的な取り組みや具体的な展開はどう考えているのか。
(2) 学校運営	・特に問題はない

<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用した多様な教育方法による遠隔授業「課題解決型授業」を 2022 年度より導入したことに触れ、学生が一人で黙々と取り組むだけでなく、途中の進捗をチェックする仕組みや教員によるフィードバック、成果物を全体に発表し意見を交換するなど、第三者に評価を受ける機会の確保が大切との意見をいただいた。</li> <li>企業では、リモートワークの社員による進捗報告と実際の成果物との間にギャップがみられるケースがある。企業での仕事においても、仕事プロセスの「見える化」や意見交換の不足が課題となっている事例について紹介をいただいた。</li> <li>・学生ポータルシステム(UNIPA)の一機能である学修管理システム(LMS)を導入して 2 年が経過したが、どのように活用され、学生の知識・技術習得や実践力の養成にどのような効果があるのか。役に立っていることは間違いないだろうが、効果や成果を明示的にした方が今後の展開にもつながるだろう。</li> <li>・時勢に応じた新たな技術を習得させるため、適宜、新規科目が創設されていることについて評価できる。次の展開として、新たな技術を教えるだけでなく、技術の活用シーンまでを想定した授業に取り組んで欲しい。習得したスキルの意欲的な活用を学校側がどう引き出すのか、総合展開への期待が大きい。</li> </ul>
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT 分野における基本情報技術者試験の取得率目標達成、デザイン分野における「第 11 回全国専門学校ゲームコンペティションプレイアブル部門」等外部コンテスト等での多数の受賞実績について、コロナ禍の影響を受けたにもかかわらず、各分野で成果をあげていることは高く評価できる。</li> <li>・企業が求める人材像は、特定の技術を持っているだけでなく人間力を含めた「総合的な力」を持った学生である。技術の習得と人間力を高めるために、教育活動の全場面で企業側のニーズを意識した人材育成を行って欲しい。</li> <li>・スキルの習得は手段であるということ、仕事とはクライアントの立場に立ったものづくりであるということ徹底する必要がある。そのためにも、仕事マインドの醸成について、企業側から学校に引き続き求めていきたい。</li> <li>・大手航空会社の企業課題に対し、多くの学生が高いレベルで企業課題に取り組んだことについて、机上の学習を超えた学びとして、今後も積極的に展開してほしい。</li> <li>・現在学生が学んでいることが、将来の社会インフラを支える価値あるものだということの意識付けが重要だ。</li> </ul>
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の意識や特性の多様化が進んでいると推測するが、コミュニケーションが苦手な学生やチームで取り組むことが難しい学生に対し、授業だけでなく様々な場面での経験を通じて、あるいは重層的な支援を通じて、人間的に成長できるよう工夫が必要と考える。</li> </ul>

(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ポータルシステム(UNIPA)や 学修管理システム(LMS)の活用、学生持ち込みノート PC の必携化によって、場所と時間を問わず繰り返し学習できる環境を提供していると評価できる。</li> <li>・教育環境整備の一環として実施する外壁リノベーション工事、及び教室への全熱交換器の設置工事について、授業等の教育活動に配慮しながら安全に行って欲しい。また、この度の取り組みが在学生の満足度向上や志願者募集活動の競争力になるよう工夫が必要だ。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者の傾向や特性の変化に応じた学生募集を展開して欲しい。</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳人口の減少や資源の高騰など厳しい外的環境の中で、学校運営における財務の健全化は非常に重要なテーマである。財務状況が学校の競争力にもなるだろう。</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では海外での国際交流は難しい。留学生の適切な受け入れを通じ、学校内で留学生と日本人学生との交流を活性化して欲しい。</li> </ul>

#### 5. 学校関係者評価委員会の評価・意見に対する活用状況

・委員からのご意見や昨今の生成 AI の急速な利用拡大を踏まえ、本校での教育活動における生成 AI に対する取り扱いや活用について、教育分野ごとの指針等の策定を進めている。

・「課題解決型授業」をより効果的に実施するため、学修管理システム(LMS)等を活用し、学生からの提出課題や意見に対するフィードバックを行う機会を確保する。また、履修者全体に対し、やり取りのプロセスを共有するなど、授業の活発化を図っていくこととした。

・学生ポータルシステム(UNIPA)や学修管理システム(LMS)による学習効果を高めるため、半期ごとの授業評価アンケート結果や各種資格合格率などの定量評価を行い PDCA につなげる。

・基本情報技術者試験の制度変更にとまなう科目ごとの授業改善を進めるとともに、訓練をキーワードにしたプログラミングの練習問題を豊富化することで、実践力の質と量を高める取り組みについて一層促進する。

・学生に対し、クライアントやユーザーのニーズに応えるものづくりの必要性や、本校で身に着けた知識や技術が将来社会インフラを支えるということについて、初年次のオリエンテーションやゼミナール、各授業を通じて仕事マインドを醸成するプログラムの中で強化していくこととした。

・質の高い職業教育を目的とした実践力を養成するため、産学連携の一環として企業課題への取り組みを全教育分野において豊富化する。

・この度の外壁リノベーション工事及び全熱交換器設置について、在学生、志願者、近隣住民など本校のステークホルダーに対し、ポスターや DM、Web サイト等を通じた広報を強化することとした。

以 上